

2021 年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 授業科目名	理学療法士科Ⅱ部		学年 必修/ 選択	1 必修	開講区分 授業形態	前期 講義	担当教員 岩佐 浩之 先生		
							時間数 (単位)	30 (2)	授業回数

[授業の学習内容と心構え](実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

教育カウンセラーとして2001年より専門学校を中心に実践的な心理学を教授する傍ら、日本語学校や技能実習生の受け入れにおけるカウンセリングも行っている。本授業では教科書的でない、生活の中に生きる心理学の授業を行うことで心理学的アプローチに役立てて欲しい。

[到達目標]

知識をしっかりと身に付け、資料を作成し、いつでも必要な時に活用できるようになる。

授業ごとに必要に応じて資料配布	[準備学習・時間外学習] 日常生活で疑問に思うことを見つけ、授業で質問する。

回	[授業概要]	到達目標(できるようになること)
1	目標設定	目標設定の仕方・目標とは何かを理解する。 目標を立てられるようになる。
2	人脈	人脈の作り方・整理の仕方を学ぶ。 自分の人脈を整理する。
3	経済的健康 その1 収入の種類	・従業員・自営業・オーナー・投資家など収入の種類を理解する。
4	目標達成の仕方	①情報 ②モチベーション ③イメージ ④願望 15のステップ一つ一つを理解する。
5	目標達成の仕方	⑤決断する ⑥目標設定 ⑦プランを立てる ⑧夢泥棒 ⑨仲間探し 15のステップ一つ一つを理解する。
6	精神的健康	心の病気について知り、対処法を身に付ける
7	身体的健康	病気のメカニズム・対処法を身に付ける。
8	心理テスト	エゴグラムの実施 自分の心の癖を知る。
9	マーケティング(流通心理学)・マネジメント	自分自身を社会にどう売り出していくか学ぶ
10	マーケティング(流通心理学)・マネジメント	様々なマーケティングの基本理論を学ぶ
11	マーケティング(流通心理学)・マネジメント	様々な企業のマーケティングを学ぶ
12	コトラー心理学	コトラー心理学の基本を学び、自分の考え方を取り入れる
13	スティーブン・コーヴィ	7つの習慣を中心に、考え方の基本を学び、いつか使えるようになる。
14	質疑応答	稻盛和夫の考え方を学ぶ。
15	定期テスト	

[評価について]

・評価は筆記試験で行う。・授業内で学んだ知識を確認する。・定期試験は60分、終了後解説を行う。・筆記試験は小テスト(40点) 期末テスト(60点)の合計100点で評価する。・評価は、学則規定に準ずる。

[特記事項]

基本的に1回ごとに完結する内容で行うが、過去の授業内容を元にステップアップして行うため、毎回確実に内容を身に着けることを心がけること。

2021 年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科Ⅱ部	学年	1	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名	いのちの倫理	必修/ 選択	必須	授業形態	講義	時間数 (単位)	15 (1)	授業回数	8
授業の学習内容と心構え		〔実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する〕							

臨床現場でリハビリテーションに携わっている教員が現在、人間の生命をめぐってどのような問題が生まれ、どのような議論があり、何が問われているのかを学び、医療における倫理観と患者やその家族の思いを推測できる力をつける授業を行なう。授業では、問われている内容を理解し、個人ワーク、グループ共有により理解を深めるため、積極的に参加してほしい。

〔到達目標〕

- ・いのちの「始まり」と「終わり」の間に起こる様々な問題に対し、患者、医療者、患者の家族の視点より推測できる。
- ・現代医療における生と死、医療の問題を説明できる。

〔使用教材、参考文献等〕	〔準備学習・時間外学習〕
授業時配布資料 はじめて学ぶ生命倫理(ちくまプリマ新書)、命は誰のものか(ディスカバー新書)、マンガで学ぶ生命倫理(化学同人)、ケースブック医療倫理(医学書院)	いのちや医療に関するニュースに关心をもち、様々な見解に触れておくことが望ましい。

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	倫理とはなにか。生命倫理の最初の問題あなたは、薬や医療設備が足りないとき、治療するひとを選んでもいいと思いますか。	倫理と道徳、法律との違いを区別できる。
2	いのちの終わりは誰がきめるのか。 自己決定権、延命治療、安楽死、尊厳死、セデーション(鎮静)	生命の尊さを認識し、死に関わる倫理的問題を理解し、自分の考えを述べることができる。
3	告知とインフォームドコンセント 告知の是非について	告知における難しさを認識し、自分の考えを述べることができる。
4	いのちの始まりはいつか 人工妊娠中絶、プロ・ライフとプロ・チョイス、出生前診断	生命の尊さを認識し、生命誕生に関わる倫理的問題を理解し、自分の考えを述べることができる。
5	こどもの医療、判断能力は誰が決めるのか。 子どもの人権と親権	生命の尊さを認識し、生命誕生に関わる倫理的問題を理解し、自分の考えを述べることができる。
6	生体臓器移植 一般の死と脳死の違いについて	臓器移植に関わる倫理的問題を理解し、自分の考えを述べることができる。
7	再生医療:クローン技術、ES細胞・IPS細胞 クローン人間をつくることは許されるのでしょうか。	再生医療に関わる倫理的問題を理解し、自分の考えを述べることができる。
8	総括	授業全体を通して学んだ内容を振り返り、授業内容に対する理解を深める。
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

〔評価について〕	〔特記事項〕
評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。	配布プリントによる授業を行なう。

2021年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 授業科目名	理学療法士科Ⅱ部		学年 必修/ 選択	1 必修	開講区分 授業形態	前期 講義	担当教員 堀内 秀憲 先生		
	理学療法基礎科学						時間数 (単位) (2)	30	授業回数 15

【授業の学習内容と心構え】

理学療法士としてスポーツ選手の治療～アスレティックリハビリテーションを行い、選手のパフォーマンス発揮に貢献している教員が理学療法に必要な科学の基礎的な内容を理解する授業を行う。目指す職種のそれぞれの分野に必要になる知識であるため、積み重ねることで将来につながることを意識しながら受講してほしい。

【到達目標】

理学療法に関わる科学の基礎的な内容を理解できるようになる。

【使用教材、参考文献等】 適宜、プリントを配布する。	【準備学習・時間外学習】 授業で行なったことを反復して復習をし、確実に身に付けることが望ましい。
-------------------------------	---

回	【授業概要】	到達目標(できるようになること)
1	【オリエンテーション】 授業の目的、グループワーク	グループワークの目的を気づき、説明することができる。
2	【数字を扱う】 ～正負の数、方程式、割合、確率～	正負の数、方程式、割合、確率について説明することができる。
3	【数字を扱う】 ～平方根、円周・円の面積、速度・加速度～	平方根、円周・円の面積、速度・加速度について説明することができる。
4	【体験 実際に計算しよう】 ～歩行速度を算出してみよう～	歩行速度を算出することができる。
5	歩行速度の振り返り 【数字を扱う】～文章題を方程式で解く～	方程式を使用し、文章題から歩行速度を計算することができる。
6	【形に慣れる】① ～相似と合同～	相似と合同について説明することができる。
7	ここまで振り返り・復習	理学療法基礎科学の前半で取り上げた内容について説明することができる。
8	確認試験 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていない部分を把握するとともにその理解度を深める。
9	【形に慣れる】② ～平方根、三平方の定理、三角比～	平方根、三平方の定理、三角比について説明することができる。
10	【力と運動】① ～“力”とは、作用・反作用の法則・てこ～	作用・反作用の法則・てこについて説明することができる。
11	【力と運動】② ～ベクトル、ベクトルの合成・分解～	ベクトル、ベクトルの合成・分解について説明できるようになる。
12	【力と運動】③ ～力のつり合い～	力のつり合いについて説明できるようになる。
13	【力と運動】④ ～重心とは、重心を求めてみよう～	重心とは、重心を求めてみようについて説明することができる。
14	【運動強度に関する計算】 ～代謝当量(MET)、心拍数からみた運動強度～	代謝当量(MET)、心拍数からみた運動強度について説明することができる。
15	期末試験	理学療法基礎科学で取り上げた内容について説明することができる。

【評価について】 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認試験(50点)と期末試験(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。	【特記事項】 服装や髪形に留意すること。 スケジュールは変更の場合あり。
--	--

2021年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 授業科目名	理学療法士科Ⅱ部	学年 必修/ 選択	1 必須	開講区分 授業形態	前期 講義	担当教員 田中 信一 先生	
	リハビリテーション概論					時間数 (単位) 15 (1)	授業 回数 8

〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

小児から高齢者まで幅広くリハビリテーション臨床現場で治療に携わっている専任教員が行なう。医療人としての事象の捉え方、対応を身につけるために、リハビリテーションとは何かについて、その理念と歴史的背景、障がいの概念、リハビリテーションの過程、医療福祉制度の知識を身につける授業を行なう。授業では、必要に応じてテーマを設定し、グループで発表を行う。理解を深めるため、積極的に参加してほしい。

〔到達目標〕

- ・リハビリテーションの定義、領域、過程を理解し、説明することができる。
- ・リハビリテーションに関わる法律および制度を区別することができる。

〔使用教材、参考文献等〕

授業時配布資料

入門リハビリテーション概論(医歯薬出版)

〔準備学習・時間外学習〕

授業後は復習をして、用語の意味を理解することが望ましい。

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	リハビリテーションの理念、定義、語源、歴史 障がい者の「自立」とノーマライゼーション	リハビリテーションの理念、定義について説明することができる。
2	医療、保健、社会福祉とリハビリテーションの関わり方 リハビリテーションの領域	リハビリテーションの領域を区別することができる。
3	健康と障がいの概念と障がい受容 ICIDHとICF	健康と障がいの概念と障がい受容について説明することができる。
4	ICIDHとICFの具体例 ICIDHとICFのメリットとデメリット	ICIDHとICFの項目を区別し、要素を分類することができる。
5	リハビリテーションの過程:急性期、回復期、生活期、終末期リハビリテーション	急性期、回復期、生活期、終末期リハビリテーションの特徴について説明することができる。
6	リハビリテーションに関わる法律および制度	リハビリテーションに関わる法律および制度を区別することができる。
7	リハビリテーションにおける重要事項 インフォームドコンセント、チーム医療、EBM、個人情報保護法	リハビリテーションにおける重要事項のキーワードを説明できる。
8	総括 定期試験	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

〔評価について〕

評価は筆記試験で行う。
評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項〕

毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。
必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。

2021年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科Ⅱ部	学年	1	開講区分	前期	担当教員		
授業科目名	運動学	必修	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	60(4)	授業回数
		選択						30

[授業の学習内容と心構え](実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

運動器疾患の理学療法士として現場で長年臨床経験を積んだ教員による授業である。必要な運動学の知識を学び将来現場に出る際に、必要な学力を身につける。また、国家試験合格に向けて、どのようなポイントで学習していくのかを伝えながら行う。覚えてはいけない知識は多いため、自己的に学習をしてもらいたい。

[到達目標]

各関節の運動に関わる筋肉を覚える。
運動に関わる、バイオメカニクスを覚える。
姿勢・移動動作など学び特長を理解する。

[使用教材、参考文献等]

基礎運動学 第6版

[準備学習・時間外学習]

基礎運動学の該当する部分の予習と復習をすること。

回	[授業概要]	到達目標(できるようになること)
1	オリエンテーション 運動学とは	運動学で学ばなければならない内容を理解する。
2	1)身体運動の面と軸、2)運動の種類 生体力学の基礎 1)テコ 2)モーメント 3)単位4)ベクトルなど	運動学に必要なバイオメカニクスを理解する。
3	1)関節の構造と機能 1)関節の種類 2)韌帯・腱とは何か	関節とは何か。関節を構成するものは何かを理解することが出来る。
4	いろいろな姿勢の呼び方	いろいろな姿勢の名称を理解し、覚えることが出来る。
5	頭部・顔面・頸部・の構造・運動	頭部・顔面の筋と運動を理解することが出来る。
6	頭部・顔面・頸部・の構造・運動	頸部の筋と運動を理解することが出来る。
7	体幹の構造と運動	体幹の構造(骨)を理解する。
8	体幹の構造と運動	体幹の構造(筋肉)・運動を理解する。
9	肩甲骨の運動について	肩甲骨周辺の筋の構造を理解する。
10	肩甲骨の運動について	肩甲骨の運動を理解する。
11	肩関節の運動について	肩関節の構造を理解する(骨・筋)。
12	肩関節の運動について	肩関節の運動を理解する。
13	肘関節の運動学	肘関節の構造・運動を理解する。
14	手関節について 手指について	手関節・手指関節の構造と運動を理解する。
15	確認テスト	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。

16	骨盤について	骨盤の構造を理解する。 骨盤に関わる運動を理解する。
17	股関節について	股関節の構造を理解する。
18	股関節について	股関節の運動を理解する。
19	膝関節について	膝関節の構造を理解する。
20	膝関節について	膝関節の運動を理解する。
21	足関節について)	足関節の構造を理解する。
22	足関節について)	足関節の運動を理解する。
23	足指関節について	足指関節の構造と運動を理解する。
24	姿勢について(臥位)	臥床姿勢の基本的知識を身につける。
25	姿勢について(臥位)	臥床姿勢の観察を行い、特徴などに気づくことができる。
26	姿勢について(座位)	座位姿勢の基本的知識を身につける。
27	姿勢について(座位)	座位姿勢の観察を行い、特徴などに気づくことができる。
28	姿勢について(立位)	立位姿勢の基本的知識を身につける。
29	姿勢について(立位)	立位姿勢の観察を行い、特徴などに気づくことができる。
30	期末テスト	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。

[評価について]
評価は筆記試験で行う。
筆記試験は確認テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

[特記事項]
観察を必要とする授業や発表を行うものは積極的に参加すること。

2021年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 授業科目名	理学療法士科Ⅱ部	学年 必修/ 選択	1 必須	開講区分 授業形態	前期 講義	担当教員 田中 信一 先生		
	運動機能論 I					時間数 (単位) (2)	30	授業回数 15

[授業の学習内容と心構え](実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

人間の運動機能の基礎となる骨格と関節の基礎を習得する授業を臨床現場でリハビリテーションに携わっている教員が行なう。理学療法士を目指すものにとって、骨格、関節の構造を知ることは重要であり、三次元的な視点で個々の骨、関節の構造や位置を十分に理解しておく必要があることを念頭に受講してほしい。

[到達目標]

- ・骨名と各部位の名称、関節の名称を述べることができる。
- ・骨、関節の構造、形態を分類できる。

[使用教材、参考文献等]

解剖学 第4版 (医学書院)

[準備学習・時間外学習]

専門用語が多い科目のため予め教科書を読み予習してくること。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。

回	[授業概要]	到達目標(できるようになること)
1	オリエンテーション 第1章;解剖学総論 人体の大要と解剖学的用語	解剖学的位置、方向と位置を示す用語、身体の区分を述べることができる。
2	第2章;骨格 人体の骨名称、骨の構造	人体の骨の名称を述べることができる。 骨の構造を述べることができる。
3	第2章;骨格 骨学各論 胸郭、上肢帯、上腕骨(近位部)	各骨を区別できる。胸郭、上肢帯、上腕骨(近位部)の各部位の名称を述べることができる。
4	第3章;関節と韌帯 関節韌帯各論 上肢帯の連結、肩関節	上肢帯の連結、肩関節の名称を述べることができる。また、関節の形態を分類できる。
5	第2章;骨格 骨学各論 上腕骨(遠位部)、橈骨、尺骨、手根骨、手指骨	各骨を区別できる。上腕骨(遠位部)、橈骨、尺骨、手根骨、手指骨の各部位の名称を述べることができる。
6	第3章;関節と韌帯 関節韌帯各論 肘関節、手根の関節	肘関節、手根の関節の名称を述べることができる。また、関節の形態を分類できる。
7	第3章;関節と韌帯 関節韌帯各論 中手の関節、指の関節	中手の関節、指の関節の名称を述べることができる。また、関節の形態を分類できる。
8	確認テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。
9	第2章;骨格 骨学各論 下肢帯、骨盤	各骨を区別できる。下肢帯の各部位の名称を述べることができる。骨盤の構造と性差を述べることができる。
10	第2章;骨格 骨学各論 大腿骨、膝蓋骨、脛骨、腓骨	各骨を区別できる。大腿骨、膝蓋骨、脛骨、腓骨の各部位の名称を述べることができる。
11	第3章;関節と韌帯 関節韌帯各論 股関節、膝関節	股関節、膝関節の名称を述べることができる。また、関節の形態を分類できる。
12	第2章;骨格 骨学各論 足根骨、中足骨、趾骨	各骨を区別できる。大腿骨、膝蓋骨、脛骨、腓骨の各部位の名称を述べることができる。
13	第3章;関節と韌帯 関節韌帯各論 足の連結	足部の関節名称を述べることができる。また、関節の形態を分類できる。
14	第2章;骨格 骨学各論 頭蓋、脊柱の骨 第3章;関節と韌帯 頭蓋、脊柱の連結	各骨を区別できる。頭蓋、脊柱の骨の各部位の名称を述べることができる。また、関節の形態を分類できる。
15	総括	運動機能論で学習した内容のまとめを通じて、習得できていないところを把握し、理解度を深める。

[評価について]

評価は筆記試験で行う。

筆記試験は確認テスト(50点)と期末テスト(50点)

の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

[特記事項]

毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。

授業では毎回骨模型を使用する。

必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。

2021年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 授業科目名	理学療法士科Ⅱ部		学年 必修/ 選択	1 必修	開講区分 授業形態	前期 講義	担当教員 脇 雅子 先生		
	解剖学 I						時間数 (単位)	30 (2)	授業回数

[授業の学習内容と心構え] (実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

衛生学を修めた医学博士が医学的・科学的な総合的知識を得るために基礎知識である人体の正常な形態と構造、器官相互関係をその機能と関連付けて理解する。解剖学を理解することは疾病から派生する障害に対する理学療法アプローチにもつながるので集中して受講してほしい。

[到達目標]

理学療法士として必要・不可欠な人体の成り立ちや神経系の形態、構造に関する基礎的知識を学ぶ

[使用教材、参考文献等] ・標準理学療法学・作業療法学 解剖学 ・病気が見える		[準備学習・時間外学習] 専門用語が多い科目のため予め教科書を読み予習してくること。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。
---	--	--

[授業概要]		到達目標(できるようになること)
1	新k寧敬総論「:神経系の区分、神経組織	神経系の構造を学習し理解する
2	中枢神経系の構成、末梢神経系の構成、髄膜、脳室系	白質、灰白質の意味する構造を理解する。神経背煮の機能区分を理解する
3	中枢神経系:脳室系、脊髄	脊髄の外形、断面を理解する。
4	中枢神経系:脊髄、脳幹:延髄	脳幹の構造と働きを理解する
5	中枢神経系:脳幹・橋、中脳	橋と中脳の構造と働きを理解する
6	中枢神経系:網様体、中脳、小脳	中脳の構造と機能を理解する
7	中枢神経系:小脳、復習	小脳の網を理解する
8	確認試験	
9	間脳、大脑半球	間脳、大脑半球の表面と区分を理解する
10	大脑皮質、髓質、大脑皮質の機能局在	大脑皮質と髓質の構造を理解する。ブロードマンの分類を理解する
11	大脑皮質の機能局在、大脑基底核	大脑基底核の構造と働きを理解する
12	上行性伝導路	温痛覚、粗大触圧覚の上行性伝導路の経路を理解し覚える
13	上行性伝導路、下行性伝導路	識別性触圧覚、非意識性深部感覚上行性伝導路の経路、下行性伝導道路を理解し覚える
14	下行性伝導路:錐体路、錐体外路	下行性伝導路(錐体路・錐体外路)の経路を覚え理解する
15	期末試験	

[評価について]
確認試験50点満点+期末試験50点満点で59点以下を不合格とする

[特記事項]

2021年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科Ⅱ部	学年	1	開講区分	前期	担当教員	曾我 浩之 先生	
授業科目名	生理学 I	必修/ 選択	必修	授業形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業回数 15

[授業の学習内容と心構え] (実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

理学博士を取得し大学等でも生理学の講義を長年教授していた経験を生かしている講師である。生理学 I では、外界の情報を得るための感覚器、外界の変化に対応して行動するための運動器と、両者の間に立って情報を処理し、運動を指令する神経系について学ぶ。解剖学では体の構造を学ぶのに対し、生理学は体の機能を知ることを目的とする。そのため生理学の学習は「覚える」ことより「理解する」ことが大切であることに注意して取り組んでほしい。

[到達目標]

ヒトが外界の情報を得るための感覚器、外界の変化に対応して行動するための運動器と、両者の間に立って情報を処理し、運動を指令する神経系についての基礎的事項を理解し、説明することができる。

[使用教材、参考文献等]

標準理学療法学・作業療法学 生理学 第5版(医学書院)
毎回プリント教材を配布する

[準備学習・時間外学習]

授業前の予習として当日分の教科書を読んでおくこと。授業後はノートを整理し、プリント章末の課題に取り組むこと。

回	[授業概要]	到達目標(できるようになること)
1	生理学で何を学ぶか	生理学の基礎的な用語について説明できる
2	細胞の生理学(1)	細胞の構造と機能について説明できる
3	細胞の生理学(2)	静止電位、活動電位、興奮の伝導について説明できる
4	神経の生理学	神経系の機能とシナプス伝達について説明できる
5	筋の生理学(1)	骨格筋、平滑筋の構造と機能について説明できる
6	筋の生理学(2)	骨格筋収縮の特性、筋と運動について説明できる
7	骨の生理学	骨の構造と機能について説明できる
8	前半のまとめ、確認試験	前半講義のまとめと中間試験による理解度の把握
9	中枢神経系の生理学(1)	脊髄、脳幹の機能について説明できる
10	中枢神経系の生理学(2)	小脳、間脳、大脳の機能について説明できる
11	中枢神経系の生理学(3)	高次脳機能、伝導路・髄液の機能について説明できる
12	感覚の生理学(1)	感覚の一般的特性と体性感覚について説明できる
13	感覚の生理学(2)	視覚について説明できる
14	感覚の生理学(3)	聴覚・味覚・嗅覚について説明できる
15	後半のまとめ、期末試験	後半講義のまとめと期末試験による理解度の把握

[評価について]

評価は学則規定に準じ、筆記試験によって行う。筆記試験は確認試験(50点)と期末試験(50点)の合計100点で評価する。

[特記事項]

毎回の授業で配布するプリントは、あくまで板書の代わりになるものであり、各自がプリントを基に自分のノートを作成すること。

2021年度 シラバス

東京メイクル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科Ⅱ部	学年	1	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名				堀内 秀憲 先生					
保健体育	必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15	

[授業の学習内容と心構え]

- ・理学療法士としてスポーツ選手の治療～アスレティックリハビリテーションを行い選手のパフォーマンス発揮に貢献している教員が、理学療法に必要な科学の基礎的な内容を理解する授業を行う。
- ・目指す職種のそれぞれの分野に共通する。そして必要になる知識でもある為、積み重ねることで将来につながることを意識しながら受講してほしい。体力トレーニングの理論・処方を学習する。スポーツの分析方法を知り、それを利用しトレーニングを考えられるようになる。

[到達目標]

スポーツを理解するために必要な基本的な考え方を学び説明することができる。
トレーニング(コンディショニングを含む)を実施するために必要なトレーニング理論理解し説明することができる。

〔使用教材、参考文献等〕 配布資料	〔準備学習・時間外学習〕 授業で学習した内容についてまとめること。 事前学習については別に指示する。
----------------------	--

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	授業オリエンテーション、実技実習の諸注意。 トレーニングの原理・原則	トレーニングの原理・原則について説明することができる。
2	パフォーマンスのための競技特性分析	競技特性分析の全体像について説明することができる。
3	パフォーマンスUpのためのエネルギー特性の分析	競技特性とエネルギー産出系について分析することができる。
4	パフォーマンスUpのためのエネルギー特性の分析	競技特性とエネルギー産出系に関するトレーニングを考え説明することができる。
5	パフォーマンスUpのための姿勢/動作の分析	パフォーマンスUpのための姿勢/動作を分析することができる。
6	パフォーマンスUpのための姿勢/動作の分析	パフォーマンスUpのための姿勢/動作に関するトレーニングを考え説明することができる。
7	運動学習	運動学習について説明することができる。
8	確認テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていない部分を把握するとともにその理解度を深める。
9	ファンクショナル・トレーニング	競技動作とファンクショナルトレーニングについて説明し模倣することができる。
10	筋力トレーニング	筋力トレーニングにおける負荷と効果の違いについて説明し模倣することができる。
11	コア・トレーニング	コア・トレーニングについて説明し模倣することができる。
12	栄養	トレーニングと栄養の関係について説明することができる。
13	コーディネーション	コーディネーションとスポーツについて説明することができる。
14	痛み	痛みとトレーニングについて説明することができる。
15	まとめ	

〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認テスト(50%)、期末テスト(50%)とする。	〔特記事項〕 ハーフパンツやTシャツ等の自らが動きやすい服装であり、かつ触診がしやすい服装で出席のこと。 実際の臨床場面を想定しているため、服装や髪形に留意すること。 スケジュールは変更の場合あり。基本的には3階装具加工室にて行う。
---	---

2021年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科Ⅱ部	学年	1	開講区分	前期	担当教員
授業科目名						本田 勝久 先生
	理学療法概論	必修/ 選択	必修	授業形態	講義	時間数 (単位)
					30 (2)	授業回数 15

[授業の学習内容と心構え](実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するかを具体的に記載する)

理学療法士として臨床の現場でリハビリテーションに貢献している教員が、理学療法の概要を解説するとともに、運動療法の概念を解説し基礎的運動療法の方法について解剖・生理学的背景と疾患別に教授する。臨床現場において対象者に効果的な理学療法を提供できる基盤となるとを意識して受講してほしい。

[到達目標]

- ①保健・医療の専門家として理学療法の本質を理解する
- ②理学療法の歴史・定義・役割を理解する
- ③疾患別理学療法の基礎を理解する

[使用教材、参考文献等]	[準備学習・時間外学習]
理学療法概論 第5版 奈良 勲 概説理学療法 嶋田 智明 文明堂	疾患を理解しやすいように積極的に事前学習する。 授業を復習する事で、知識の定着に努める。

回	[授業概要]	到達目標(できるようになること)
1	理学療法の定義・役割・歴史	理学療法の定義・役割・歴史を理解する
2	理学療法の法的身分・職域・関連職種	理学療法の法的身分・職域・関連職種を理解する
3	理学療法の実施過程	理学療法が行われる過程について理解する
4	理学療法と障害	理学療法が対象になる障害を理解する
5	肢体不自由と理学療法	肢体不自由に対する理学療法を理解する
6	平衡機能障害・嚥下機能障害と理学療法	平衡機能障害と嚥下機能障害に対する理学療法を理解する
7	理学療法士に必要な資質	理学療法士に必要な資質を理解し、自己を高める
8	確認試験	前7限の授業内容の理解度を考查する
9	内部障害と理学療法	内部障害に対する理学療法を理解する
10	理学療法の思考と手段	理学療法の思考過程を理解する
11	筋骨格系疾患と理学療法	筋骨格系疾患に対する理学療法を理解する
12	神経・筋に対する理学療法	神経・筋疾患に対する理学療法を理解する
13	呼吸・循環障害に対する理学療法	呼吸・循環障害に対する理学療法を理解する
14	皮膚障害に対する理学療法	皮膚障害(外傷・熱傷・潰瘍など)に対する理学療法を理解する
15	総括	理学療法の本質的役割・効果を確認し説明できるようになる

[評価について]

評価は学則規定に準じ、筆記試験によって行う。
筆記試験は確認試験(50点)と期末試験(50点)の合計100点で評価する。

[特記事項]

毎回の授業で配布するプリントは、あくまで板書の代わりになるものであり、各自がプリントを基に自分のノートを作成すること。

2021年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 授業科目名	理学療法士科Ⅱ部		学年 必修/ 選択	1 必修	開講 区分 授業 形態	前期 講義	担当教員 森 洋行 先生					
	必修	授業 回数					時間数 (単位) (1)	授業 回数				
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)												
ライフセーバーとして救命現場で実践活動の経験を積んだ教員が、救急現場の実際を交えながら授業を行う。ライフセービングの精神を理解することで単にBLS(Basic Life Support)の技術的な習得で完結するのではなく、大切な人の命を見つめ、社会復帰率の向上に貢献できるようにする。												
〔到達目標〕												
ライフセービングの精神を理解し生命教育を通じ、救急隊・医師へと引き継ぐまでの数分間の視点(バイスタンダー)をもって、救急救命を“知っている”という体験レベルから“生命を救うことが出来る”という実践レベルへ、質の高い知識と技術の習得を目指す。日本ライフセービング協会公認BLS資格を取得する。												
〔使用教材、参考文献等〕			〔準備学習・時間外学習〕									
「心肺蘇生教本」(日本ライフセービング協会) 教材:レサシアン、AED、三角巾 参考図書:「AT専門課程テキスト・救急処置」JSPO			授業で行ったことを反復練習により確実に身に付けられるようにする。 自身の行動範囲においてAED設置場所を確認しておく。									
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)								
1	オリエンテーション 救急処置の意義と目的			バイスタンダーの役割を理解する。								
2	心肺蘇生法の意義と手順			救急体制の重要性と事故発生時のフローチャートを理解し習得する。								
3	AEDの使い方			AEDについて、その必要性を理解し手順を習得する。								
4	人工呼吸と胸骨圧迫 小児乳児の心肺蘇生、気道異物除去			救命率を上げる質の高い心肺蘇生を習得する。								
5	確認テスト(学科検定、実技検定)及び解説 日本ライフセービング協会公認BLS資格検定を実施			テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。BLS資格の取得を目指す。								
6	外傷時の救急処置1(けがの手当て、止血の仕方) 運搬法			皮膚などに傷のあるけがの処置を習得する。 けが人の搬送の仕方を実践する。								
7	外傷時の救急処置2 三角巾を用いた傷の処置			三角巾でのけがの保護を習得する。								
8	期末テスト(学科検定、実技検定) 解説			テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。								
9												
10												
11												
12												
13												
14												
15												
〔評価について〕 評価は筆記試験及び実技試験で行う。 試験は確認テスト50点(筆記20点、実技30点)と 期末テスト50点(筆記30点、実技20点)の合計 100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。			〔特記事項〕 授業内だけでなく自主練習により技術向上に努めること。 動きやすい服装(女性はズボン着用)が望ましい。									

2021年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科Ⅱ部	学年	1	開講区分	後期	担当教員	石川 和美 先生		
授業科目名	ITリテラシー			必修/選択	必修	授業形態	講義		
							時間数(単位)	30(2)	授業回数

〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

大学、専門学校、企業、PCスクールでOffice系資格対策講座の実施経験があり、有資格者の教員が授業を実施します。Windows(ハード)で、MicrisoftOffice(Word=効率が良く効果的な文書作成する。Excel=様々な計算処理を行い必要書類を作成し、また顧客のデータを管理する。PowerPoint=プレゼンテーションを作成し発表する。)将来の仕事で活用するだけではなく、学生生活において様々な学習にも活用出来るように学習していきます。

〔到達目標〕

学習を通じ、社会へ出た際、どのようなジャンルの仕事であっても、事務処理に困らないためのスキルを習得します。操作をマスターし、さらに機能の理解を深め、将来自分自身の仕事に役立つ使い方が出来るよう学習していきます。

〔使用教材、参考文献等〕	〔準備学習・時間外学習〕
隨時、必要に応じてプリント配布	2回目以降、ブラインドタッチが出来るよう、毎回、タイピング練習を行います。 (https://www.e-typing.ne.jp/)

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	パソコンの基礎知識を理解する　日本語入力と編集 言語バーの活用(読めない文字を入力する・辞書登録)	各アプリケーションを使いこなしていくための第一歩として、下記を理解し操作出来る ・アプリケーションの起動と終了の手順 ・日本語入力と編集(効率よい入力方法を理解できる) ※タッチタイピングの練習を毎回行い卒業までにブラインドタッチをマスターする
2	Wordの基本操作を理解する　文書作成の基本的な流れ 範囲選択コピーと移動　書式設定基礎　ファイルを保存する	書式設定を理解し見栄えの良い文書を仕上げる操作が出来る。文書の作成と保存が出来る。
3	表現力をアップする機能(画像の挿入と編集)　文書の印刷	表現力の豊かな文書を作成出来る(チラシ作成) 作成した文書を印刷できる
4	ページ設定(用紙サイズの設定・余白の設定・印刷の向きの設定) ハガキ作成	各種はがきを作成出来る(販促・お知らせ)
5	Wordの图形描画機能を理解し操作が出来る。簡略地図を作成する	图形描画機能を利用し様々な图形を組み合わせて描画できる
6	Excelの基本操作を習得する　範囲選択・データの入力・効果的なデータの入力・オートフィル　書式や罫線の設定　四則演算の基礎	Excelの概要と基本操作を理解し操作出来る
7	表の作成と、関数の基礎(SUM関数/Average関数/MAX関数)について 計算式を設定する(オリジナルの計算式の設定) 絶対参照と相対参照を活用する	表の作成方法を理解し操作出来る① SUM関数・AVERAGE関数・MAX関数を活用出来る 絶対参照と相対参照を理解し、構成比を求める計算式を設定出来る。
8	確認テスト	これまでの学習が身についていることを確認できる
9	グラフを作成する グラフ構成要素の書式の設定方法	グラフの種類を理解し、必要に応じたグラフを作成・活用できる (棒グラフ・円グラフ・折れ線グラフ)
10	データベース機能 データベースの構造を知る データの並び替え、抽出を行う	データベースの作成と分析の操作が出来る
11	Power Pointの基本操作　新しいスライドを挿入 プレースホルダの編集　スライドレイアウトの変更　行頭文字の変更 画像の挿入	Power Pointの基本操作を理解し操作出来る
12	テキストボックスを作成　スライドのデザインの変更　画面の切り替え効果　アニメーションの設定　ノートペインの活用　リハーサル機能	スライドの編集方法を理解し操作出来る 効果的なスライドショーを実行するための操作を理解し実施出来る
13	オリジナルのプレゼンテーションを作成する①	テーマに沿った情報を集め作成を始めるデータを完成させる
14	作成したプレゼンテーションを発表する	Power Pointの機能を活用し、説得力のあるプレゼンテーションを実施出来る
15	期末テスト	これまでの学習が身についていることを確認できる

〔評価について〕	〔特記事項〕
評価は実技試験で行う。 筆記試験は確認テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。	2回目以降、ブラインドタッチが出来るよう、毎回、タイピング練習を行います。 (https://www.e-typing.ne.jp/) ブラインドタッチが出来ると、各作業を効率よく出来るため、ぜひマスターしたいスキルです。時間を見つけてぜひ練習してください。

2021年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 理学療法士科Ⅱ部	学年	1	開講区分	後期	担当教員		
授業科目名					鈴木 広大 先生		
	必修/ 選択	必修	授業形態	講義	時間数 (単位)	60 (4)	授業回数
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 運動器疾患の理学療法士として現場で長年臨床経験を積んだ教員による授業である。理学療法士として必要な運動学の知識を学び将来現場に出る際に必要な学力を身につける。また、国家試験合格に向けて、どのようなポイントで学習していくのかを伝えながら行う。覚えてなくてはいけない知識は多いため、自己的に学習をしてもらいたい。							
〔到達目標〕 各関節の運動に関わる筋肉を覚える。 運動に関わる、バイオメカニクスを覚える。 姿勢・移動動作など学び特長を理解する。							
〔使用教材、参考文献等〕 基礎運動学 第6版	〔準備学習・時間外学習〕 基礎運動学の該当する部分の予習と復習をすること						
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)			
1	基本的動作について(寝返り)			寝返りに必要な筋肉や運動などの要素を獲得する			
2	基本的動作について(寝返り)実践			実際に寝返りを観察し文章化することが出来る			
3	基本的動作について(起き上がり)			起き上がりに必要な筋肉や運動などの要素を獲得する			
4	基本的動作について(起き上がり)実践			実際に起き上がり動作を観察し文章化することが出来る			
5	基本的動作について(起立動作)			起立動作に必要な筋肉や運動などの要素を獲得する			
6	基本的動作について(起立動作)実践			起立動作の異常などを体を動かしながら検討する			
7	基本的動作について(起立動作)課題発表			起立動作異常について検討した内容を発表する			
8	歩行について1			歩行に必要な神経学的な要素・生理学的な要素などを学ぶ、歩行の相分けを学び各名称を覚える			
9	歩行について2			歩行の相分けを学び各名称を覚える			
10	歩行について3			歩行を理解するのに必要な、歩幅・ケイデンス・速度などの基準値を覚える			
11	歩行について4			歩行の相分けに対し、どのような筋肉が使われているのかを学び習得する			
12	歩行について5			歩行の相分けに対し、どのような筋肉が使われているのかを学び習得する			
13	歩行について6			歩行の相分けわけに対し、バイオメカニクス的な要素を学び習得する			
14	歩行について7			歩行の相分けわけに対し、バイオメカニクス的な要素を学び習得する			
15	確認テスト			確認テストでここまでるものについての知識の確認を行う			

16	歩行について(高齢者と小児の歩行の違いについて)	高齢者や小児など特徴的な歩行の要素を学ぶ
17	歩行観察(実践)	実際に片麻痺患者の歩行の動画を見て、観察を行う。観察の中で、正常歩行との違いを考える
18	歩行観察(実践)	実際に片麻痺患者の歩行の動画を見て、観察を行う。観察の中で、正常歩行との違いを考える
19	歩行観察(実践)	実際に片麻痺患者の歩行の動画を見て、観察を行う。観察の中で、正常歩行との違いを考える
20	歩行観察(実践)	実際に片麻痺患者の歩行の動画を見て、観察を行う。観察の中で、正常歩行との違いを考える
21	歩行観察(発表)	グループで観察品太陽なども含み、発表を行う。他のグループの発表を聞くことで、自分に足りない部分の知識を理解する
22	歩行観察(発表)	グループで観察品太陽なども含み、発表を行う。他のグループの発表を聞くことで、自分に足りない部分の知識を理解する
23	異常歩行について	病気により起こる異常歩行を理解する
24	異常歩行について	病気により起こる異常歩行を理解する
25	運動学習	運動学習の過程や学習の転移などの知識を理解する
26	エネルギー消費について	エネルギー消費について生理学的な知識も含めて理解する
27	筋生理学	筋線維の成り立ちや筋の種類などを理解する
28	筋生理学	筋の収縮様式や収縮方法などを理解する
29	総復習	運動学で扱った内容について復習を行い確認をする
30	期末テスト	期末テストにより、今までに学習した知識の確認を行う

[評価について]	[特記事項]
評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。	観察を必要とする授業や発表を行うものは積極的に参加すること。

2021年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 授業科目名	理学療法士科Ⅱ部 運動機能論Ⅱ	学年	1	開講区分	後期	担当教員 田中 信一 先生		
		必修/ 選択	必須	授業形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業回数

〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

人間の運動機能の基礎となる筋系の基礎を習得する授業を臨床現場でリハビリテーションに携わっている教員が行なう。理学療法士を目指すものにとって、個々の筋の起始・停止、作用、支配神経やその髄節レベルを熟知しておく必要があることを念頭に受講してほしい。

〔到達目標〕

- ・個々の筋の起始・停止、作用、支配神経の名称を述べることができる。
- ・筋の配置を述べることができる。
- ・筋の特徴を区別することができる。

〔使用教材、参考文献等〕

解剖学 第4版 (医学書院)

〔準備学習・時間外学習〕

専門用語が多い科目のため予め教科書を読み予習すること。
また、授業後は復習し用語の意味を理解することが望ましい。

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	オリエンテーション 第4章:筋系 筋学総論 骨格筋の構造、骨格筋の作用	骨格筋の構造を述べることができる。骨格筋の形状、作用を区別できる。
2	第4章:筋系 筋学各論 上肢帯の筋	上肢帯の筋の起始・停止、作用、支配神経の名称を述べることができる。筋を区別することができる。
3	第4章:筋系 筋学各論 上腕の屈筋群、伸筋群	上腕の屈筋群、伸筋群の起始・停止、作用、支配神経の名称を述べることができる。筋を区別することができる。
4	第4章:筋系 筋学各論 前腕の屈筋群	前腕の屈筋群の起始・停止、作用、支配神経の名称を述べことができる。筋を区別することができる。
5	第4章:筋系 筋学各論 前腕の伸筋群	前腕の伸筋群の起始・停止、作用、支配神経の名称を述べることができる。筋を区別することができる。
6	第4章:筋系 筋学各論 手の筋	手の筋の起始・停止、作用、支配神経の名称を述べることができる。筋を区別することができる。
7	第4章:筋系 筋学各論 背部浅側の筋、胸筋群	背部筋、胸筋群の起始・停止、作用、支配神経の名称を述べることができる。筋を区別することができる。
8	確認テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。
9	第4章:筋系 筋学各論 内・外寛骨筋群	内・外寛骨筋群の起始・停止、作用、支配神経の名称を述べることができる。筋を区別することができる。
10	第4章:筋系 筋学各論 大腿伸筋群、大腿の内転筋群	大腿伸筋・内転筋群の起始・停止、作用、支配神経の名称を述べることができる。筋を区別することができる。
11	第4章:筋系 筋学各論 大腿屈筋群、下腿伸筋群	大腿屈筋群、下腿伸筋群の起始・停止、作用、支配神経の名称を述べることができる。筋を区別することができる。
12	第4章:筋系 筋学各論 胫骨筋群、下腿屈筋群	腓骨筋群、下腿屈筋群の起始・停止、作用、支配神経の名称を述べることができる。筋を区別することができる。
13	第4章:筋系 筋学各論 頸部の筋、固有背筋群	頸部の筋、固有背筋群の起始・停止、作用、支配神経の名称を述べることができる。筋を区別することができる。
14	第4章:筋系 筋学各論 咀嚼筋、表情筋	咀嚼筋、表情筋の作用、支配神経の名称を述べることができる。筋を区別することができる。
15	総括	運動機能論で学習した内容のまとめを通じて、習得できていないところを把握し、理解度を深める。

〔評価について〕

評価は筆記試験で行う。
筆記試験は確認テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項〕

毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。
授業では筋の触診法も紹介する。自分の身体で確かめ復習すること。
必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。

2021年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科Ⅱ部	学年	1	開講区分	後期	担当教員	脇 雅子 先生		
授業科目名	解剖学 I	必修/ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業 回数	15

[授業の学習内容と心構え] (実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

理学療法士として医学的・科学的な総合的知識を得るとともに、人体の構造と機能と正常な形態と構造、器官相互関係をその機能と関連付けて理解する

[到達目標]

理学療法士として必要・不可欠な人体の成り立ちや携帯・構造に関する基礎的知識を学ぶ

〔使用教材、参考文献等〕	〔準備学習・時間外学習〕
標準理学療法学・作業療法学 解剖学	専門用語が多い科目のため予め教科書を読み予習してくること。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	末梢神経系:脊髄神経	脊髄神経とは何か。頸神経神経を理解する
2	脊髄神経:頸神経叢、腕神経叢	頸神経叢、腕神経叢の構成を理解する
3	脊髄神経:腕神経叢の枝、鎖骨上枝	腕神経叢の構成と鎖骨上枝の筋枝、皮枝を理解する
4	脊髄神経:腕神経叢鎖骨下枝	筋皮神経など鎖骨下枝を理解する
5	脊髄神経:鎖骨下枝	尺骨神経、腋窩神経、橈骨神経の筋枝、皮枝、マヒを理解する
6	脊髄神経:鎖骨下枝	橈骨神経。正中神経の筋枝、皮枝、マヒを理解する
7	脊髄神経:胸神経、腰神経、仙骨神経叢	筋枝、皮枝を理解する
8	確認試験	
9	脊髄神経:坐骨神経	坐骨神経の構成、筋枝、皮枝、障害を理解する
10	脊髄神経:陰部神経、仙骨神経、脳神経	脳神経を理解する
11	脳神経	脳神経の名称、構成、機能、障害を理解する
12	脳神経	脳神経の名称、鯉字正、機能、障害を理解する
13	自律神経:交感神経、副交感神経	交感神経の構成、経路、副交感神経の特徴を理解する
14	自律神経:副交感神経	副交感神経の特徴を理解する
15	期末試験	

〔評価について〕 確認試験50点満点+期末試験50点満点で59点以下を不合格とする	〔特記事項〕
--	--------

2021年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 授業科目名	理学療法士科Ⅱ部		学年 必修/ 選択	1 必修	開講区分 授業形態	後期 講義	担当教員 脇 雅子 先生					
	解剖学 I											
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)												
理学療法士として医学的・科学的な総合的知識を得るとともに、人体の正常な形態と構造、器官相互関係をその機能と関連付けて理解する												
〔到達目標〕 理学療法士として必要・不可欠な人体の成り立ちや形態、構想、機能に関する基礎的知識を学ぶ												
〔使用教材、参考文献等〕 ・標準理学療法学・作業療法学 解剖学 ・病気が見える		〔準備学習・時間外学習〕 専門用語が多い科目のため予め教科書を読み予習してること。 また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。										
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)								
1	循環器系:血管			血管系の構造、特徴を理解する								
2	循環器系:心臓			心臓の位置、区分、弁などを理解する								
3	循環器系:心臓、動脈系			刺激伝導系、心臓の血管心臓から出る動脈系を理解する								
4	動脈系:脳に血液を供給する血管			脳の血管を理解する								
5	動脈系:脳に血液を供給する血管下肢、下腿部の血管			総腸骨動脈などを理解する								
6	動脈系、静脈系			静脈系の特徴を理解する								
7	静脈系:特殊循環系			特殊循環系を理解する								
8	確認試験											
9	胎生期の循環系、リンパ系			胎生期の循環系、リンパ系の構造、機能を理解する								
10	呼吸器系:鼻、喉頭			鼻、喉頭の構造を理解する								
11	呼吸器系:喉頭、気管、気管支			発声のしくみ、気管・気管支の構造、特徴を理解する								
12	呼吸器系:肺			肺の構造を理解する								
13	呼吸器系:肺、胸膜、縦郭。感覚器系			胸膜、縦郭の構造を理解する。外皮の構造を理解する								
14	感覚器系:角質器			毛、爪、皮膚腺を理解する								
15	期末試験											
〔評価について〕 確認試験50点満点+期末試験50点満点で59点以下を不合格とする		〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。										

2021年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 理学療法士科Ⅱ部	学年	1	開講区分	後期	担当教員			
					樋口 美幸 先生			
授業科目名 人間発達学	必修 ・ 選択	必修	授業形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業回数	15

[授業の学習内容と心構え]（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する）

人間発達学では、生涯にわたる人間発達の様相を、胎児期・新生児期から乳幼児期、児童期、青年期、成人期、老年期において、それぞれが持つ身体的、精神的、心理社会的特徴とその障害を理解し、発達に応じた社会との関わりを総合的に捉え、具体的支援の在り方について学修する。

〔到達目標〕

- ・人間発達の原則を理解する事ができるようになる
 - ・運動発達、ハンドスキルの発達、視覚・眼球発達、目と手の協調性、遊びの発達、コミュニケーションと言語の発達、日常生活活動の発達についての概要を理解する事ができるようになる。

[使用教材、参考文献等]

標準理学療法学・作業療法学 基礎分野 生理学

[準備學習・時間外學習]

回	[授業概要]	到達目標(できるようになること)
1	人間の発達の概要、発達の原則、発達期について①	人間発達学とは何か、発達の概念、発達の原則について理解できる
2	人間の発達の概要、発達の原則、発達期について②	グループ学習で人に伝える事ができる
3	胎生期および新生児期と乳児期の特徴について①	胎生期および乳児期の特徴をまとめる事ができる
4	胎生期および新生児期と乳児期の特徴について②	胎生期および乳児期の特徴を発表する事ができる
5	運動発達と姿勢反射(原始反射・正常姿勢反応)について①	運動発達の原則、原始反射、姿勢・運動発達の概要をまとめる
6	運動発達と姿勢反射(原始反射・正常姿勢反応)について②	運動発達の原則、原始反射、姿勢・運動発達の概要をグループで発表できる
7	視覚・眼球運動の発達について	視覚の発達、眼球運動の発達について調べてまとめ発表する事ができる
8	確認テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める
9	ハンドスキルの発達について目と手の協調性について①	視覚の発達、眼球運動の発達について調べてまとめる事ができる
10	認知機能の発達について①	認知機能の発達についてまとめる事ができる
11	コミュニケーションおよび言語の発達について①	コミュニケーションと言語の発達についてまとめる事ができる
12	遊びの発達、日常生活活動の発達について	日常生活活動および遊びの発達についてまとめる事ができる
13	幼児期の発達、児童期の発達について	幼児期および児童期についてまとめる事ができる
14	青年期、成人期、老年期の発達について	青年期、成人期、老年期についてまとめる事ができる
15	グループ学習(幼児期～老年期)	幼児期～老年期までの発達の流れを理解できる

<p>[評価について] 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。</p>	<p>[特記事項] 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。必要に応じ配布プリントによる授業・体験的な実習的学習を行なう。</p>
---	--

2021年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科Ⅱ部	学年	1	開講区分	後期	担当教員	曾我 浩之 先生	
授業科目名	生理学	必修/ 選択	必修	授業形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業回数 15

[授業の学習内容と心構え] (実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

理学博士を取得し大学等でも生理学の講義を長年教授していた経験を生かしている講師である。生理学Ⅱでは、循環、呼吸、消化、排泄など体内の環境を一定に保つための機構と、その調節を行う自律神経、ホルモンについて学ぶ。

解剖学では体の構造を学ぶのに対し、生理学は体の機能を知ることを目的とする。そのため生理学の学習は「覚える」ことより「理解する」ことが大切であることに注意して取り組んでほしい。

[到達目標]

循環、呼吸、消化、排泄など体内環境を一定に保つための機構と、その調節を行う。
自律神経、ホルモンについての基礎的事項を理解し、説明することができる。

[使用教材、参考文献等]

標準理学療法学・作業療法学 生理学 第5版(医学書院)
毎回プリント教材を配布する

[準備学習・時間外学習]

授業前の予習として当日分の教科書を読んでおくこと。授業後はノートを整理し、プリント章末の課題に取り組むこと。

回	[授業概要]	到達目標(できるようになること)
1	血液の生理学	血液の機能について説明できる
2	循環器の生理学(1)	循環器の機能、心電図について説明できる
3	循環器の生理学(2)	血圧と心臓の収縮特性について説明できる
4	循環器の生理学(3)	血液循環とその調節について説明できる
5	内蔵機能の調節(1)	自律神経系について説明できる
6	内蔵機能の調節(2)	内分泌系とヒトのホルモンについて説明できる
7	呼吸器の生理学	呼吸器の機能について説明できる
8	前半のまとめ、確認試験	前半講義のまとめと確認試験による理解度の把握
9	泌尿器と体液の生理学	泌尿器の機能と酸塩基平衡について説明できる
10	代謝と体温	栄養素と代謝、体温とその調節について説明できる
11	消化器の生理学(1)	消化管の機能について説明できる
12	消化器の生理学(2)	栄養素と吸収、肝臓の機能について説明できる
13	生殖と発生(1)	生殖器の機能について説明できる
14	生殖と発生(2)	ヒトの発生・成長・老化について説明できる
15	後半のまとめ、期末試験	後半講義のまとめと期末試験による理解度の把握

[評価について]

評価は学則規定に準じ、筆記試験によって行う。
筆記試験は確認テスト(50点)と期末テスト(50点)
の合計100点で評価する。

[特記事項]

毎回の授業で配布するプリントは、あくまで板書の代わりになるものであり、各自がプリントを基に自分のノートを作成すること。

2021年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース理学療法士科Ⅱ部		学年 授業科目名	1 必修/ 選択	開講区分 必修	後期 授業形態 講義	担当教員 鈴木 広大 先生								
理学療法評価概論						時間数 (単位) 30 (2)	授業回数 15							
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)														
運動器疾患の理学療法士として現場で長年臨床経験を積んだ教員による授業である。本科目は理学療法士として、必要な患者の評価・検査を学んでいく。講義では、正しい検査の知識を学び、実技では実践を通して技術の獲得を目指していく。														
実技の授業となるため遅刻欠席はせず、授業内だけでなく自主練習をして授業に臨んではほしい。														
〔到達目標〕														
理学療法の評価とは何かを理解する。 理学療法士に必要な検査方法を理解する。														
〔使用教材、参考文献等〕			〔準備学習・時間外学習〕											
理学療法評価学 PT・OTのための測定評価ROM			学ぶ検査の予習と復習をすること。 実技練習を、授業時間外にもしっかりと行うこと。											
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)									
1	オリエンテーション(p13まで) 総論 評価の意義・目的 国際障害分類、時期と目的評価から治療までの流れ				理学療法士にとっての評価とはどのようなものか理解できる。									
2	一般評価事項・評価の尺度と妥当性、意識障害について 医療情報・医療面接基礎知識・医療面接実践				評価の尺度・医療面接などの知識と技術を学ぶ									
3	バイタル測定基本知識・バイタル測定				血圧測定・脈拍測定・呼吸数・体温測定などのバイタル測定が出来るようになる。									
4	形態測定 BMI・ローレル指数、肢長基礎知識				形態測定に必要な知識を身につける。									
5	形態測定 周径基礎知識実践P28～35				実際に形態測定を行い、技術を身につける。									
6	関節可動域訓練総論 関節可動域を測定する意味とは				なぜ、関節可動域を測定するかを理解する									
7	関節可動域測定 肩甲帯・肩関節				肩甲帯・肩関節の関節可動域測定が出来るようになる。									
8	確認テスト				テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。									
9	関節可動域測定 肘・前腕・手・手指				肘・前腕・手・手指の関節可動域測定が出来るようになる。									
10	関節可動域測定 股関節・膝				股関節・膝の関節可動域測定が出来るようになる。									
11	関節可動域測定 足関節・足部・足指				足関節・足部・足指の関節可動域測定が出来るようになる。									
12	関節可動域測定 体幹・頸部 全体復習				体幹・頸部の関節可動域測定が出来るようになる。									
13	筋力検査 総論 MMT(頸部・体幹・肩甲帯)				頸部・体幹・肩甲帯のMMTが出来るようになる。									
14	筋力検査 総論 MMT(頸部・体幹・肩甲帯)				頸部・体幹・肩甲帯のMMTが出来るようになる。									
15	期末テスト 解説				テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。									
〔評価について〕			〔特記事項〕											
評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。			積極的に実技の練習を行うこと。 実技が行えるような格好で授業に参加すること。											

2021年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 授業科目名	理学療法士科Ⅱ部	学年 必修/ 選択	1 必修	開講区分 授業形態	後期 講義	担当教員 佐藤 俊生 先生		
	理学療法基礎セミナー					時間数 (単位) 30(2)	授業回数 15	

[授業の学習内容と心構え](実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)
 医療・福祉現場における理学療法士の役割を理解し職業理解を深める。
 ・実際の現場を通して、臨床での心構えや理学療法士と他職種とのかかわりを学ぶ。
 ・臨床実習において学生に求められるものを学ぶ。

[到達目標]

現場を見学することにより、理学療法士としての職業理解を深め、臨床実習において学生に求められる考え方や、態度を身につける。

[使用教材、参考文献等] 毎回プリント教材を配布する	[準備学習・時間外学習] 授業を通して医療人としての考え方方に注意を払う事

回	[授業概要]	到達目標(できるようになること)
1	オリエンテーション コミュニケーション・接遇	医療人としての考え方を理解できる
2	実習におけるマナー 4年間の流れ、1年生の心得	自身の学びをフローで考える事ができる
3	実習におけるマナー	実習を迎えるものとしての態度に気づく事ができる
4	実習とは 実習生として必要なもの(GW)	グループワークで考え方を共有できる
5	実習とは 実習生として必要なもの(GW)	グループワークで考え方を共有できる
6	感染予防、リスク管理 等	実習先での危機管理を理解できる
7	呼吸器の生理学	呼吸器の機能について説明できる
8	前半のまとめ、確認試験	前半講義のまとめと確認試験による理解度の把握
9	学外施設での見学実習(病院)	実習に行く前に情報を整理できる
10	学外見学実習後のグループディスカッション	お互いが気づけるように指摘する事ができる
11	見学実習に関するプレゼンテーション	見学実習にあたって学んだ事を言語化できる
12	実技試験 練習	現場で求められたときの実技の練習
13	実技試験 練習	現場で求められたときの実技の練習
14	実技試験 練習	現場で求められたときの実技の練習
15	後半のまとめ、期末試験	後半講義のまとめと期末試験による理解度の把握

[評価について]

評価は学則規定に準じ、筆記試験によって行う。
 筆記試験は確認テスト(50点)と期末テスト(50点)
 の合計100点で評価する。

[特記事項]

毎回の授業で配布するプリントは、あくまで板書の代わりになるものであり、各自がプリントを基に自分のノートを作成すること。

2021年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科Ⅱ部	学年	1	開講区分	後期	担当教員			
授業科目名						岩佐 浩之 先生			
	コミュニケーション論	必修/ 選択	必修	授業形態	講義	時間数 (単位)	15 (1)	授業回数	8

[授業の学習内容と心構え] (実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)
教育カウンセラーとして2001年より専門学校を中心に実践的な心理学を教授する傍ら、日本語学校や技能実習生の受け入れにおけるカウンセリングも行っている。本教科は対人職を目指すうえで必要なスキルとしてのコミュニケーションを身につける為に実践的に学んでいく授業である。人の違いを受け入れ共助・自助・公助・互助を意識して参加してほしい。

[到達目標]

言葉と態度と文章で、どの様な、相手でも状況でも、自分の気持ちや考えを伝えられるようになる。

〔使用教材、参考文献等〕	〔準備学習・時間外学習〕
授業ごとに必要に応じて資料配布	日常生活で疑問に思うことを見つけ、授業で質問する。

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	コミュニケーションの基本	皆が考えるコミュニケーションを統一する。 コミュニケーションとは何か、自分の考えを書く。
2	コミュニケーションの領域	自分とのコミュニケーション・1対1のコミュニケーション・1対複数のコミュニケーションを知る。
3	バーバルコミュニケーションとノンバーバルコミュニケーション	言葉と態度で相手に伝える技術を身に付ける。
4	トラブル・怒りを対象にしたコミュニケーション	アンガーマネジメントについて学び対処法を身に付ける。
5	サービスマインド	顧客満足・対人者の満足について理解し実践できる。
6	コミュニケーション実践①	情報共有をバーバル・ノンバーバルで実践的に学ぶ。
7	コミュニケーション実践②	コミュニケーションを通して自己開示・他者理解・自己容認・他者享受を体感する。
8	定期試験	コミュニケーション技法を筆記試験で確認する。
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

〔評価について〕	〔特記事項〕
・評価は筆記試験で行う。・授業内で学んだ知識を確認する。・定期試験は60分とし終了後解説を行う。・筆記試験は小テスト(40点) 期末テスト(60点)の合計100点で評価する。・評価は学則規定に準ずる。	基本的に1回ごとに完結する内容で行うが、過去の授業内容を元にステップアップして行うため、毎回確実に内容を身に着けることを心がけること。

2021年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 授業科目名	理学療法士科Ⅱ部	学年	1	開講区分	後期	担当教員		
	文章リテラシー	必修/ 選択	必修	授業形態	講義	時間数 (単位)	15 (1)	授業回数 8

【授業の学習内容と心構え】(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

教育カウンセラーとして2001年より専門学校を中心に実践的な心理学を教授する傍ら、日本語学校や技能実習生の受け入れにおけるカウンセリングも行っている。本教科は対人職を目指すうえで必要なスキルとしての文章表現技術を身につける。相手のことを考えながら文字化する魅力とポイントを身につけて欲しい。

【到達目標】

言葉と態度と文章で、どの様な相手でも状況でも自分の気持ちや考えを伝えられるようになる。

【使用教材、参考文献等】

授業ごとに必要に応じて資料配布

【準備学習・時間外学習】

日常生活で疑問に思うことを見つけ、授業で質問する。

回	[授業概要]	到達目標(できるようになること)
1	手紙・はがき・メールのルール	実習先への御礼文が書けるようになる。
2	話し言葉と、文章言葉の違い	話し言葉と、文章言葉の違いを知り、失礼のない文章が書けるようになる。
3	尊敬語・丁寧語・謙譲語	尊敬語・丁寧語・謙譲語の違いを知り、スムーズに使い分けるようになる。
4	自己紹介文作成（ポエム）	読む人の興味を膨らませ、楽しませる文章が書けるようになる。
5	自己紹介文作成（ポエム）	読む人の興味を膨らませ、楽しませる文章が書けるようになる。
6	実習日誌の書き方(感想と考察の違い)	感想と考察の違いを理解する。
7	実習日誌の書き方(感想と考察の違い)	考察で表現できるようになる。
8	定期試験	文書技術の基礎を筆記試験で確認する。
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

【評価について】

・評価は筆記試験で行う。・授業内で学んだ知識を確認する。・定期試験は60分とし終了後解説をおこなう。・筆記試験は小テスト(40点) 期末テスト(60点) の合計100点で評価する。・評価は学則規定に準ずる。

【特記事項】

基本的には1回ごとに完結する内容で行うが、過去の授業内容を元にステップアップして行うため、毎回確実に内容を身に着けることを心がけること。